



自然豊かな里山をそばに 妙見山を満喫する

リニューアルされた「妙見の森」
魅力あふれるスポットに出かけてみませんか

Caption 1. 「妙見口」駅と市街を結ぶ里山電車 2. 妙見山麓までたどり着くと、リニューアルされた「黒川」駅が姿を現す 3. ケーブルで山を登り、脇にある足湯スポット。登山で疲れた足腰を癒やす秘湯として喜ばれている 4. バーベキューテラスや「森のカフェあじさい」で、グルメを堪能 5. リフト沿いのアジサイは6月～7月が見ごろ 6. 紅葉やサクラの映えるトロッコ電車「シグナス森林鉄道」は子どもたちにも大人気

※ 12月8日から3月13日までケーブルは運休
(正月などを除く)

平成25年、開業100周年を迎え、妙見山一帯をリニューアル。「妙見の森」という名のお出かけスポットが誕生しました。

そう、「のせでん」は「妙見口」駅までではありません。「黒川」駅～「ケーブル山上」駅の妙見の森ケーブルや、山頂までの妙見の森リフトも運行しています。

そういえば最近「妙見山」行ってへんなーそんなあなた。一度、訪れてみてください。ちょっとステキな妙見山が迎えてくれるはず。今、「のせでん」が乗っています。

お出かけスポット誕生

黒川地区の最北部には妙見山があります。

かつて、能勢妙見宮への参詣者と能勢地方の産物を輸送するために生まれた能勢電鉄。大正2年の開業から10年、大正12年には、妙見線「能勢口」駅から「妙見」駅までの全区间が開通しました。

現在、ハイキングやピクニックなどで多くの人たちが訪れるようになった妙見山。イベントなども多数開催されています。

始まりは参詣者と産物の輸送

黒川地区では、現在も茶席などに使用する菊文様の高級炭「二庫炭」を生産。多くの人の協力により、原材料となるクヌギ林の保全活動が行われています。

クヌギ林を守るために行われる継続的な森林の伐採と植樹。人の手を入れながら上手に自然の形を守っていく営みが評価され、日本一と呼ばれるようになりました。

能勢電鉄「川西能勢口」駅から乗車し約25分。電車は「日本一の里山」黒川地区の玄関口「妙見口」駅へと到着します。

終着駅は日本一の地

のせでんの のってんねん

わがまちの自慢の鉄道



「初詣に利用する」という人も多いのではないのでしょうか。1世紀以上にわたり、私たちの生活を見守ってきた能勢電鉄。通学や通勤、買い物やお出かけに、数えきれないほどの人たちを運んできました。現在、市では「幸福沿線川西市～クラシに直結ミライに連結～」を都市ブランドコンセプトにシティセールスを展開しています。能勢電鉄はまちづくりの多くの分野で市と協力。今号では、きっと自慢したくなるわがまちの「のせでん」を紹介します。詳しくは能勢電鉄(株)総務部総務人事課 ☎ (792) 7200 へ。



黒川 妙見の森 ケーブル 山上 ふれあい 妙見の森 妙見山
ケーブル 広場 リフト

のってんねんけど 知らなかった MAP

「のせでん」に乗っていて、「あれ何やろう」や「変わった駅名やな」と思ったことはありませんか。ここでは明日使える豆知識や、あなたの「知らなかった」を紹介。意外な「実は…」を明かします。

妙見口 **ときわ台**

田園風景は必見
「山下」駅で分岐後、妙見線に入ると、山間部へと入ります。ハイカーなどで賑わう車内。のどかな田園風景を走る電車は、妙見山へのうらかな道程を予感させます。かつては「妙見」駅と呼ばれていた「妙見口」駅。山麓までは少し距離があることから改称されました。駅から大阪府豊能町吉川の集落を抜け、徒歩約15分で妙見の森ケーブル「黒川」駅へと到着。日本一の里山らしい風情ある駅舎が出迎えてくれます。



光風台

笹部

山下

かつて終着駅だった一の鳥居

大正2年、「能勢口」駅～「一の鳥居」駅区間が開通。当時は「能勢口」「絹延橋」「滝山」「鼓滝」「多田」「平野」「一の鳥居」の7駅で、「鶯の森」駅はまだありませんでした。「能勢口」駅に「川西」の名が付いたのは昭和40年のことです。また、「一の鳥居」駅を降車し東側に見える城は「大阪青山歴史文学博物館」で、国宝の「土佐日記」や千利休の書状など貴重な資料5,000件以上を収蔵しています。



畦野 **一の鳥居**

高架を抜けると別世界

例年6月中旬～下旬に見ごろを迎える頼光寺のアジサイ。「畦野」駅から、看板を頼りに300mほど歩くと、能勢電鉄のガードが見えてきます。高架をくぐり抜けると別世界に。静かな境内を彩る約500株のアジサイが出迎えてくれます。秋にはモミジの葉などが色づき、手入れの行き届いた境内は1年を通して訪れる人たちの目を楽しませています。



河原で絹を延べていた

川西市と大阪府池田市の府県境を跨ぐ橋「絹延橋」。「川西能勢口」駅を出発し、1つ目の駅名にもなっています。かつて、付近では機織りや多色染めが営まれ、猪名川で友禅流しをし、河原で干していたといわれています。



だんじりや神輿が集結

3年に1度行われる多太神社の大祭。宮入りの前には、新田、平野、矢間、東多田のだんじりや神輿が「多田」駅前に集合。その後173号線を北上し、多太神社へと向かいます。境内では、だんじりの引き回しなどが盛大に行われ、多くの観客を魅了します。



平野 **多田** **鼓滝**

今も残存する三ツ矢塔

三ツ矢サイダー発祥の地「平野」。ウィリアム・ガウランドというイギリスの化学者が平野鉱泉を「理想的な鉱泉」と認め、明治40年に製造が始まりました。当時の名は「平野水」。大正時代中頃、平野駅北部一帯には東洋一の規模といわれた清涼飲料水工場があったといわれますが、現在、工場は閉鎖され、三ツ矢塔などが残るのみとなりました。



※見学することはできません

川西能勢口

絹延橋

滝山

鶯の森

鼓滝

ピストン電車が走行

昭和56年まで、現在の阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅からJR「川西池田」駅の前までの区間を電車が走行。「川西能勢口」駅付近の再開発をきっかけに廃線となりました。



実は池田市!?

「鶯の森」駅を北へと出発。銭取り岩を脇に架橋を越えるとトンネルに。一度池田市を通過して「鼓滝」駅へと到着します。



日生中央





Event

こんなやってんねん

通勤・通学時に利用する「のせでん」。吊り革につかまってふと見上げ、広告を見て「いろんなイベントをやっているんだなあ」と思ったことはありませんか。魅力あるイベント実施に向け、社員の皆さんが日々奮闘しています。

地元のおいしい野菜を沿線の皆さんにお届け

旬菜マルクト

川西市や能勢町、猪名川町、豊能町の野菜を駅構内で販売。新鮮な野菜を地元の農家から直接仕入れていきます。

現在、「川西能勢口」「平野」「畦野」「山下」駅で実施中。開催時間はホームページで随時更新。構内の販売場所など詳しくは能勢電鉄公式ホームページ (<http://noseden.hankyu.co.jp/>) へ。



企画推進課 馬淵誠さん

良い品が早く手に入る
のせでん沿線の農作物にはおいしいものが多いんですね。それを皆さんに知ってもらいたいという思いでやっています。農家の皆さんは、そんな私たちの思いをくみ、本当に良い品を出荷してくださるんですよ。直接仕入れをしていますので、旬の野菜や果物など、地域自慢の特産品を、市場に出回る前に店頭に出すことができます。初物や旬の食材は、特に人気ですね。北摂や能勢で有名な栗の王様「銀寄」や川西市特産のいちじくなどは、すぐに売り切れてしまいます。

春夏秋冬。季節ごとに装いを変える手作りの車内



のせでん装飾電車

季節ごとに随時開催。26年12月下旬から27年1月中旬にかけては「のせでん新春電車」が走行しています。装飾されるのは、3100系の1編成2両（ダイヤは日によって異なります）。詳しくは能勢電鉄公式ホームページ (<http://noseden.hankyu.co.jp/>) へ。公式フェイスブックページ「のせでん日記」 (<https://www.facebook.com/noseden>) にも掲載。



鉄道営業課 松尾良子さん

ほっこりした気持ちに
きっかけは23年夏の節電でした。乗客の皆さんに目や耳から涼を、と始めたのが「風鈴電車」です。

好評で「季節ごとによろう」という話になったんですよ。デザインや装飾は私たち社員がやっているものなので、手作りの風合いを感じてもらえればうれしいです。企画の中には、近隣市町の園児や児童に参加してもらっているものもあります。子どもたちの思いを込めたカードや手作りの工作で出来上がった車内。通勤や通学で疲れて帰ってきた人たちに、ほっこりした気持ちになってもらえたらなと、思っています。

東谷 ズム 大正ロマン 電車



まちを盛り上げる産・官・民連携の取り組み

魅力発信や団地再生などの分野で市と協力を続ける能勢電鉄株。市民有志の団体「街はカーニバル！プロジェクト」が中心となり開催されている「東谷ズム」では“縁の下力持ち”の役割を果たしています。



地道な活動を続けること

「感謝してもしきれないですね」。そう話すのは、ヒガシタニズム実行委員長の米田憲一さん。26年11月22日、郷土館周辺で「東谷ズム」が開催されました。今回は3回目となる試みで、地域の魅力PRのために企画。グルメなどが集う「サトヤマルシェ」や歴史講談、アコースティックの音楽など、大正ロマンをコンセプトとしたイベントに、約1400人が来場しました。

米田さんは「街はカーニバル！プロジェクト」の一員として、イベント発案当初から実行委員長を務めています。もちろん東谷地域の出身。「このイベントを企画したその一番最初から一緒にやってきてくれたのが能勢電鉄さんです。協力がなければ実現しなかったことばかりなんですよ」

「東谷ズム」は郷土館だけでなく、地域全体を巻き込んだイベント。



ヒガシタニズム実行委員長 米田憲一さん

当日朝、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅を「大正ロマン電車」が出発します。電車には、当時は偲はせる衣装に身を包んだ参加者が乗車。能勢電鉄「山下」駅で下車後、郷土館まで行列が練り歩き、地域全体にはランウェイに登場し、ファッションショーを繰り広げます。「郷土館に衣装を着た人たちが到着した後は、会場全体が華やかになるんですよ。イベントのエッセンスになっていきます」と米田さん。能勢電鉄の協力はもちろん当日だけでなくありません。駅構内でのポスターの掲示や車内吊り、ホームペーajでのPRのほか、メディアへのプレスリリースなども行ってきました。イベントの準備やスタッフとしての参加も続けていきます。

「僕ら、育ってきたまちの姿を守りたいと思っています。そのためには、まちが魅力的でないといけないんですよ。そして、魅力を多くの人に知ってもらわなければいけない。その意識は、能勢電鉄さんと共通しているのかなと。ただ特効薬は無く、きつと地道なものなんです。能勢電鉄さんはずっと昔からやってきたこと。幸運にも、市や地域の皆さんの協力もあってイベントが実現しました。継続できるように、今後の企画を練っていきます」

